

日本レスキュー協会 パキスタン地震救助活動 報告

事業報告

- 10月10日 14:00 発のパキスタン航空 PK853 便にて同日 21:00 (現地時間) にイスラマバード空港に到着。すぐに情報収集を始める。
- 10月11日 3:00 に、まずマンセラに向け出発。マンセラで情報収集後。バラコットに移動した。バラコットにて搜索活動をおこない、2遺体を発見。
- 10月12日 5:00 にホテルを出発し、9:00 にムザファラバードに到着。早速、イスラマバード・パブリックスクールで搜索をおこない、男児1人の遺体を発見。その後、マディナマーケットで搜索をおこなうも反応なし。搜索中に救助犬のうち1頭が右後肢肉球部を負傷したため、現地で活動していたドイツ・イギリス合同レスキューチームに傷口の縫合をしてもらう。その間にイスラミア・パブリックスクールで搜索をおこなう。反応なし。
- 10月13日 バッドグラムにて搜索をおこなう予定であったが、途中のマンセラで隊員が体調不良を訴え、搜索を中止。医師の診察を受ける。
- 10月14日 医師の勧めによりイスラマバードで一日待機。
- 10月15日 地震発生から時間が経ち、これ以上の生存者の搜索は難しいと判断。バラコットへ行き、11日の搜索時に救助犬が反応を示した箇所の救助結果を確認する。3遺体発見の情報を得る。これにより、バラコットでの搜索結果は5遺体発見となる。住民の要請で、新たに1箇所搜索をおこなうが反応なし。現地女性のための仮設トイレを設置し、イスラマバードへ戻る。
- 10月16日 搜索活動を終了し、22:35 (現地時間) 発のパキスタン航空 PK852 便にて帰国。翌日 12:40 成田着。

今後の展望

今回の搜索ではバラコットで5遺体、ムザファラバードで1遺体、計6遺体を発見という結果になったが、今回の経験を教訓として、より迅速に搜索活動を開始できるよう、各機関との連携を整え、一人でも多くの生存者発見を目指したい。また、機材と人員を拡充し、搜索のみでなく救助活動もできるだけ自力でおこなえるようにしていきたい。

団体概要

阪神大震災を契機として 1995 年 9 月 1 日に設立。国内外の多くの災害現場に災害救助犬を派遣している。ジャパンプラットフォーム加盟後での出動は、インド・アフガニスタン・イランに続いて4回目。また、災害救助犬だけでなく、セラピードッグの育成・派遣や動物愛護の活動もおこなっている。